

○普及上参考となる技術

[タイトル] タマネギのネギアザミウマに対する薬剤散布適期

[要約] ネギアザミウマに対して、秋まきタマネギ栽培では発生初期である5月中旬の殺虫剤1回散布、春まきタマネギ栽培では5月中旬以降の殺虫剤3回散布の防除効果が高い。

[キーワード] ネギアザミウマ、タマネギ、殺虫剤、薬剤散布適期

[担当場所・課] 農林水産総合技術センター・農業研究所・病理昆虫課

[連絡先] 電話 076-429-5249

[背景・ねらい]

タマネギ栽培におけるネギアザミウマの食害は、葉身部に認められ、特に生育期の気温が高くなる春まきタマネギ栽培で目立つが、りん茎（出荷部位）に及ぼす影響については不明である。一方、タマネギの生育期には、雑草および病害防除が多数回行われることから、効率的な虫害防除が求められている。そこで、本種の発生や被害実態に応じた薬剤散布適期を作型別に明らかにする。

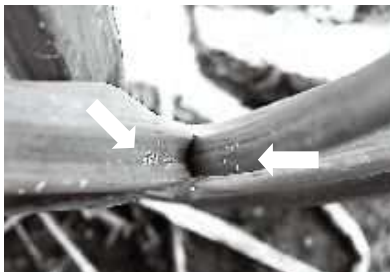
[成果の内容・特徴]

- 1 秋まきタマネギ栽培における本種の発生は5月上旬から認められる。発生が増加し始める5月中旬の殺虫剤1回散布の防除効果は、5月下旬の殺虫剤1回散布より高く、5月中・下旬の2回散布と同等である（図1）。
- 2 春まきタマネギ栽培における本種の発生は5月中旬から認められ、5月中旬以降の殺虫剤3回散布の防除効果が高い（図2）。
- 3 適期の殺虫剤散布により、りん茎の調製重が確保され、貯蔵中の葉鞘基部の食害痕確認球率および腐敗球率が低くなる（表1、表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 各地域のタマネギ栽培に活用できる。
- 2 本種の初発生は葉の芯部（新葉抽出部の基部）に認められる（参考）。春先の気温が高く発生が早いと予測される場合には、定期的に芯部をモニタリングし、発生初期に防除を行う。
- 3 本種の防除は、トクチオン乳剤、ディアナ SC など効果の高い薬剤を使用する（2017年度主要成果）とともに、適用作物、収穫前日数等の登録内容を十分に確認して行う。
- 4 収穫残渣での本種の増殖および周辺作物への移動を抑えるため、収穫後は速やかに耕起する。

（参考）



矢印：葉の芯部で確認される
黄色のネギアザミウマ幼虫

[具体的データ]

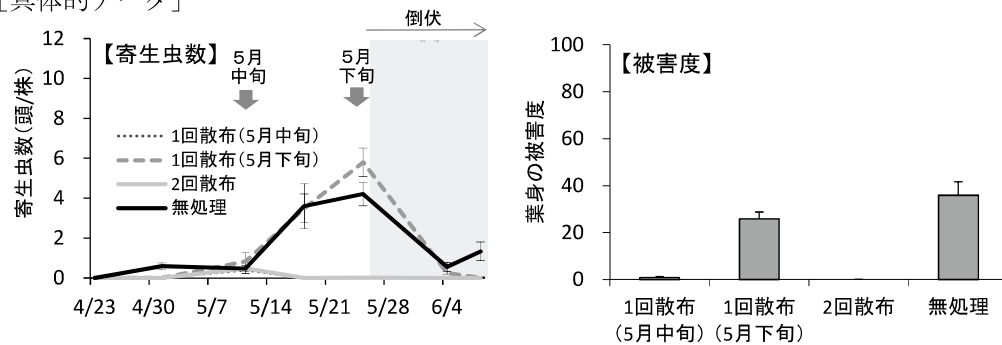


図1 秋まきタマネギ栽培における殺虫剤散布時期・回数とネギアザミウマの寄生虫数および被害度 (2018 年)

注) 品種: ターザン、定植: 前年 10/18、収穫: 6/13、矢印: 殺虫剤散布時期、各区の薬剤散布時期・回数は表1を参照
中心3葉を調査 (発生予察事業の調査基準に準拠)

表1 秋まきタマネギ栽培におけるネギアザミウマの殺虫剤散布時期・回数とタマネギりん茎の調製重、貯蔵中の食害痕確認球率および腐敗球率 (2018 年)

区	殺虫剤散布時期		調製重 (g/球)	食害痕 確認球率 (%)	貯蔵中の腐敗球率 (%)		
	5月中旬	5月下旬			約1か月後	約2か月後	約3か月後
1回散布 (5月中旬)	○	-	241.5	1.1	0	1.1	3.3
1回散布 (5月下旬)	-	○	222.8	3.3	0	1.1	7.8
2回散布	○	○	241.4	0.0	0	1.1	2.2
無処理	-	-	230.1	11.1	0	3.3	8.9

注) 品種: ターザン、定植: 前年10/18、○: 殺虫剤散布 (登録内容に準拠、300L/10a、展着剤添加)、殺菌剤散布: 慣行に準拠
収穫: 6/13、食害痕確認球率: 貯蔵約1か月後に葉鞘基部のりん片表面を調査 (軽微な食害痕を含む)

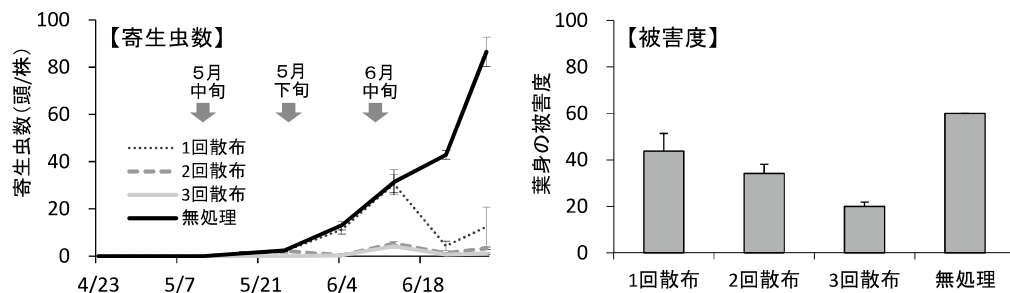


図2 春まきタマネギ栽培における殺虫剤散布時期・回数とネギアザミウマの寄生虫数および被害度 (2018 年)

注) 品種: ターザン、定植: 4/2、収穫: 7/4、矢印: 殺虫剤散布時期、各区の薬剤散布時期・回数は表2を参照
中心3葉を調査 (発生予察事業の調査基準に準拠)

表2 春まきタマネギ栽培におけるネギアザミウマの殺虫剤散布時期・回数とタマネギりん茎の調製重、貯蔵中の食害痕確認球率および腐敗球率 (2018 年)

区	殺虫剤散布時期			調製重 (g/球)	食害痕 確認球率 (%)	貯蔵中の腐敗球率 (%)	
	5月中旬	5月下旬	6月中旬			約1か月後	約2か月後
1回散布	-	-	○	174.5	78.9	14.4	27.8
2回散布	-	○	○	182.7	64.4	7.8	22.2
3回散布	○	○	○	182.2	60.0	1.1	16.7
無処理	-	-	-	166.6	91.1	14.4	51.1

注) 品種: ターザン、定植: 4/2、○: 殺虫剤散布 (登録内容に準拠、150L/10a、展着剤添加)、殺菌剤散布: 慣行に準拠
収穫: 7/4、食害痕確認球率: 貯蔵約1か月後に葉鞘基部のりん片表面を調査 (軽微な食害痕を含む)

[その他]

研究課題名: 園芸微小害虫の制御に関する研究

予算区分: 県単 (革新技术開発普及事業)

研究期間: 2019 年度 (2018~2020 年度)

研究担当者: 青木由美、黒田貴仁

発表論文等: なし